

令和4年度学校評価及び令和5年度重点課題

1. めざす学校像

【教育方針】

個々の能力を十分に伸ばさせると共に、品性の高い教養のある人間を育成する。
思いやりのある豊かな心、真理を追究する真摯な心、自己を厳しく律する克己の心を育て、
文化国家の担い手にふさわしい人材を育成する。

【教育目標】

豊かな知性、正しい判断力、理解力を養うことを教育の根本とし、将来の目標を達成するために
恵まれた環境を活用してきめ細かい指導を行う。
基本的な生活習慣を身につけさせるための躰については十分留意、厳しく指導し、あくまでも
清楚にして質実健全な校風の高揚につとめる。

2. 中期的目標

1. はじめに

普通科総合選択制・進路別指導により、本人の能力を十分に発揮できる教育を目指す。
多様で個性のある子どもを受け入れることができる学校として、その存在感を教職員全体で示していく。
総合選択制の優位性を個々の指導に反映させると共に教員の意識改革を進める。

2. 普通科総合選択制の更なる充実

- 1) 満足度調査（生徒向けアンケート）の実施
- 2) 基礎学力の底上げと選択科目の充実
- 3) 生徒の実態に合わせた学力向上のための授業形態の確立
- 4) 個々のニーズの把握と学力向上
- 5) 総合的な探究指導
- 6) 進路別指導、小論文指導、検定学習（漢検）、エリア学習（公開）
- 7) ICTを導入した授業展開（すらら学習）の充実
- 8) 新指導要領への対応のための研鑽
- 9) 令和7年度8年度の学校改編（2期制・45分7限授業）に向けた検討

3. 生徒の規範意識の向上、基本的な生活習慣の確立、服装、頭髪、マナーの向上

- 1) 遅刻指導の徹底
- 2) 定期的な頭髪服装検査の実施
- 3) 登下校中のマナーの向上
- 4) 講習会の実施（薬物乱用防止講習、自転車講習、携帯スマホ講習など）

4. 生徒自身の自主活動を充実させ、自立の精神を養う

- 1) 体育祭、文化祭等の学校行事の充実
- 2) 部活動の活性化
- 3) 生徒会活動の充実

5. いじめ問題

- 1) いじめ防止基本方針に基づく人権教育の徹底

【普通科総合選択制アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

普通科総合選択制アンケートの結果と分析(令和5年1月実施分)	学校評価委員会からの意見
<p>○「選択の基準」に見られる「満足度」</p> <p>⑧「先生に勧められた」と回答した生徒の満足度が極端に低い結果となった。</p> <p>○「進路を決めた時期」に見られる「満足度」 進路決定が遅くなると選択科目の満足度が低くなる傾向がある。しかし例年ほどの顕著な差は出なかった。</p> <p>○「進路とエリアの合致」にみられる「満足度」 進路決定とエリアの合致については、選択科目の満足度にかなりはつきりとした差が生じた。</p> <p>○「全体を通しての考察」 普通科総合選択制に伴う選択授業は、その先の進路決定を見据える必要があると考えられる。生徒の進路決定には、生徒自らが主体性を持って選択しなければならず、選択科目の選択がその一環となるべきだと考えられる。</p> <p>もちろんエリアや選択科目だけが進路に関わるわけではなく、その他の行事や取り組みなどを含めて総合的に生徒の主体的な進路決定に影響していくことが大事だと考えられる。</p>	<p>※学校教育の質的向上に向けて、継続的に取り組んでいるのは大いに評価できる。今後も箕面学園の教育理念のもと教職員一同が生徒には親切、丁寧、大事に向き合って、満足度向上に向けて取り組んで欲しい。</p> <p>※入学後早い段階で進路を決めている生徒の満足度が高い事には一定評価できる。今後は進路がなかなか定まらない生徒に対してどう向き合うか検討していく必要がある。</p> <p>※進路とエリアの関係を意識した選択進路とエリアが合致する生徒の満足度が高いことは明確な希望進路を設定できている。生徒にとって満足できる講座を提供できていることと評価できる。生徒が早くから希望進路を考えられるよう進路指導などを通じてこれからも促していく必要がある。</p> <p>※全体を通して選択科目を選ぶ際に進路に違いのある生徒により適切な助言できるよう努めること。また生徒が早期に希望進路を決められるよう促すことが重要で。引き続き生徒に丁寧に向き合う取り組みを続けてください。</p>

遅刻数、頭髪指導者集計・学校行事アンケートからの結果と分析	学校評価委員会からの意見
<p>遅刻指導・身だしなみ等、各学年・生徒指導部中心に検査を実施してきた。</p> <p>数年前と比べると頭髪検査で指導も受ける割合は少なくなっている。遅刻指導ではポイント指導という本校独自のものも取り入れている。</p> <p>○1日平均で比較すると、欠席の減少した学年と増加した学年があり、理由等ははっきりしたことは言えない。昨年に引き続きコロナ禍の状況で出席停止の申請は多かった。遅刻も改善は見ることができず若干増加傾向である。来年度は出停の取り扱いも変更になるので欠席、遅刻の数の増加が懸念される。</p>	<p>*数年前と比べると、遅刻数や頭髪検査、特別指導を受ける生徒が大幅に減少し、学校の質の向上、教職員の指導の成果と評価できる。今後はその時代に合わせた指導を都度見直ししていく必要があると言える。</p> <p>*学校行事に関して、コロナ感染対策で中止や延期せざる終えない中どうすれば実施することができるかを考え、実施してきていることは教職員感染対策を万全に実施できているからこそ行えたと評価できる。</p> <p>*クラブ活動はアスリートクラブ以外も入部率が近年安定し、学校全体の活性化を図られている。一方、活動場所の確保に向けても今後の課題として検討していかなければと言える。</p>

<p>しかし、通常の学校生活を送ることになる意識づけや欠席、遅刻が減少するよう働きかけを引き続き根気よく行っていかなければならないと思う。</p> <p>エリア学習は今年度、6～8回実施したが、学年が上がると欠席、遅刻も増加している。エリア学習の取り組み内容の確認や生徒への意識付けを再度、行っていかなければならないと思う</p> <p>学校行事について今年度は体育大会、球技大会、文化祭について感染対策に組み合わせつつ実施することができた。制約のある中、生徒たちが楽しめることを目標に行事の企画実施ができたと考える。</p> <p>クラブ活動活性化については、硬式野球部が秋季近畿大会に出場するなど今年も公式戦で上位進出を果たすクラブが出てきた。一芸一能制度を利用して入学する生徒も増え、アスリートクラブを中心に頑張っている。今後に期待したい。</p>	
---	--

	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指針	自己評価
総合選択制の更なる充実	生徒の学力向上に向けて	<p>○生徒に1人1台タブレット端末を購入させ、学習に活用する。 (令和4年度1年生より)</p> <p>google classroom for education, MetaMojiの授業支援アプリを用い、授業の双方向化などICTを活用した授業作りを行い、生徒の理解の向上に努める。</p> <p>○個別学習支援システム「すらら」の活用</p> <p>1) 令和4年度1年生より生徒全員に年間通して、8回の課題を国語、英語、数学からそれぞれの進度に応じて配信。 英語、数学は小・中学校時の学びなおしを中心であった。 学年の協力を得て、課題の締め切り後に居残り学習を1時間程度行った。</p> <p>2) 2・3年生については1部選択科目内にて</p> <p>3) オープンキャンパスで体験コーナーを設置する。</p>	<p>○学力向上のための、「基礎力の定着」と「家庭学習習慣の定着」</p> <p>○期日までに課題を計画的に終わらせる「自己管理能力」の育成</p>	<p>○1年生の「すらら」学習についてよかった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士で教えあうなど、コミュニケーションをとる1つの方法になっていた。 ・朝学で時間が取れた時、集中している生徒たちは学習への雰囲気づくりになっており、1時間目にスムーズに入れた。 <p>悪かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別最適化ができる教材で一律の課題は合わないのでは。 ・期間内に終わらせることが目的になってしまい、適当に取り組むなど、学習として成り立っていなかった。 ・学校で終わらせてしまう生徒には、家庭学習の習慣はつかなかった。 <p>すらら学習を取り組む上で困った点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すらら(クロームブック)で学習をしたくないというこだわりを持つ生徒の対応が難しかった。 ・積極的に取り組まない、適当な答えを入力し続けて課題を終えてしまう生徒が多かった。 ・解説を読んで理解できる生徒が少なく、解けなかった問題に対して質問があるとき、1人に対応していると、残りの生徒まで目が行き届かない。 ・成績や進路に関わるという実感が与えられていないので、意欲的に取り組ませにくかった。 ・問題によっては、生徒の実態とすららの出題レベルがあっていないこともあった。 <p>○来年度に向けて</p> <p>1・2年生は「すらら」に替えてスタディサブリを利用する。これにより講義動画の充実、到達度テストの実施を図ることができ、上記の</p>

			反省点・問題点の解消につながると考える。 3年生は、すらを利用する選択科目受講者のみすらを利用する。
選択科目の充実	生徒へ普通科総合選択制についてアンケートを実施し、教員の授業改善などの参考資料とする。	アンケートで普通科総合選択制の理解度や、生徒各々が希望する進路に応じた授業選択または教員が生徒の能力に沿った授業を行えているか満足度で評価し、全ての項目で60ポイント以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の満足度平均 73.3 (69.2) ・専科の満足度平均 72.4 (68.1) ・基礎教養の満足度平均 73.9 (70.0) ・2年次の選択授業満足度平均 72.2 (68.5) ・3年次の選択授業満足度平均 74.2 (69.7) 全ての項目で60ポイントを上回った。また今年度は昨年度よりポイントが上がった。
各エリアの方針 1) アドバンスエリア ① 大学・専門学校受験に必要な学力養成を目指す。 ② 大学・専門学校進学へ向けて進路意識向上を目指す。 ③ 大学・専門学校進学後も通用する学力養成を目指す。 ○今年度も引き続き、より進学実績をあげるために選抜クラスを設定する。 目標として、追手門大学・摂南大学・佛教大学・看護系・医療系の大学・専門学校または、それ以上のレベルの大学の学校推薦型選抜・一般選抜合格 2) キンダーアンドウェルフェアエリア キンダー ・「体験」を重視し、実習を通して実践力を身につける ・専科・基礎教養との連携し、3年間の指導計画を明確にし実行する ・卒業後の進路に対する意識づけ キンダー) ・幼児教育での音楽・リズム表現や造形表現の技術の習得、向上を目	個々の生徒の自己実現を目指して、アドバンス(大学・短大進学)、キンダーアンドウェルフェア(幼児教育・福祉)、アスリート(スポーツ)、キャリアアップ(就職、専門学校進学)の4つのエリアに分かれて、学習する。 1) アドバンスエリア ○エリア学習 学年や目指す大学の受験形式に応じて、受験学習講座、小論文指導、面接練習を中心とした授業、国語・数学の選択、英語必修の習熟度別授業、進路意識向上の講座を開講。 ○7限目講座の開講 ○サマーセミナーの実施 ○自習室の活用 ○キャンパスツアーの実施 2) キンダーアンドウェルフェアエリア ○エリア学習 キンダー) ・保育実習準備 ・季節の行事 ・歌唱・器楽表現 ・造形表現 ウェルフェア) ・福祉に関する講座 ・車椅子体験 ・白杖体験 ・高齢者レクリエーション体験 ○7限目講座として ・ピアノ講座 楽典講座(各学年 7限目) ・保育基礎講座(各学年 不定期) ・福祉講座(各学年 火曜 7限目) 3) アスリートエリア エリア学習について 基本的には各クラブにおいて、実技講習や実践理論講習、練習試合など	エリア学習については各エリアの活動方針に沿って総括する。	1) アドバンス ○エリア学習 今年度も新型コロナウイルスの影響で、欠席や出席停止の生徒が多かった。その中でも出席している生徒に関しては目的を持ってエリア学習に取り組むことができた。 1年生は10月15日、3年生は11月26日に関西国際大学に出前授業をしていただいた。1年生の授業に関しては経営学と心理学の選択授業、3年生の授業はレポートライティングに関する授業だった。 1年生も3年生も積極的に授業に参加していた。 3年の入試前に関してはアスリートエリアの生徒も受け入れ、志望理由書の添削などを行った。 ○7限授業について 今年度も特進・公募向けの授業と一般向けの授業の2展開で行った。 (特進・公募向けの授業)・・・大学受験で必要な科目を受講する。 (一般向けの授業)・・・授業の復習等授業でより高い点数をとるために受講する。 一般の授業に関しては申込みをしているものの次第に参加人数が減っていく現状がある。もう少し生徒たちへの意識付けをしていきたい。 ○進路概観 7 進路概観 ・小論文やプレゼンを利用して受験した生徒が増えた。対策が必要なため時間がかかるが、合格者も一定数いる。 ・試験科目が3科目以上になると厳しい。2科目までに絞って受験していくと合格数も上がる。 ・指定校推薦の生徒でも入試に学力検査を含む大学が出てきており(追手門学院大学、桃山

<p>指す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附属幼稚園の幼児との関わりを通して、『保育』を体験する ・進路へのイメージをより具体的にする ・基礎的な知識を学び、看護・介助等の実習経験を積む ・進学・就職についてのイメージをより具体化する ・基礎教養とも連携し、知識や技術を深める <p>○ピアノ講座、福祉講座、保育基礎講座を開講する。</p> <p>3) アスリートエリア</p> <p>競技スポーツに必要な知識や理論を総合的に学び、アスリートとしてのスキルアップを図る。</p> <p>スポーツを通じて心身を鍛えるとともに、自己実現に向けて努力する生徒の育成を目指す。</p> <p>各クラブがエリア学習の公開などを積極的に活用しながら、特別奨学金制度の各クラブの人数枠以上を確保できるように募集活動も積極的に行っていく。</p> <p>4) キャリアアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な人間づくりを目指す。 ・中学校評価(面倒見がいい学校)をより高める。 ・生徒の進路に向けての意識の向上 ・社会で生きていく力の育成 ・キャリア教育(おもに就職領域)の充実 ・土曜日の出席率を上げる。 	<p>を実施し、専門的なスキルアップを図る。その上で、アスリートエリアとして共通講座(目標設定講座など)を開講し、必要な知識や理論を学ぶ。</p> <p>年間を通して、基本的には各クラブにおいて活動する。また大会の日程などを考慮しながら、共通講座を各クラブ1~2講座を受講できるように調整する。</p> <p>4) キャリアアップエリア</p> <p>○土曜日エリア学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・判別講座の実施 1教員につき15名程度の生徒で班を構成する。※1~3年混在 ⇒班によるLHR(毎回学習テーマを設定) ⇒班別講座(担当教員1名に着き1講座) <p>※【学びのテーマ】①~④もしくは⑤で設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他業者による講習会や講演会などを企画する。 <p>○サマーセミナー、サマーキャンプの実施</p> <p>○7限目講座の実施</p>		<p>学院大学等)、学力が伴っていないという結果になることも多々ある。大学が課している評定と箕面学園の成績で取ることができる評定に乖離が生まれている現状である。今後は生徒の実力を正しく測ることができる模試の導入などの検討が必要かもしれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合型選抜などのプレゼンテーションでは「総合探究で行った内容」について課せられたり、志望理由書の中でも総合探究について述べないといけない大学が増えている。より一層の探究学習の充実が求められている <p>2) キンダーアンドウェルフェアエリア</p> <p>○7時間目 講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7時間目 ピアノ講座(各学年 ピアノ・楽典各1日、計2日) ・7時間目 福祉講座(毎週火曜日) <p>○外部実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箕面学園附属幼稚園 7月7日 キンダー全学年 ・五日間の夢体験事業(大阪福祉人材支援センター主催) 3年生 2名 <p>○まとめ</p> <p>*キンダー</p> <p>今年度はコロナの影響で実施できていなかった、附属幼稚園への保育実習を行うことができた。大阪福祉人材支援センター主催の五日間の夢体験事業(保育園での実習)には2名参加することができた。</p> <p>土曜エリアでは造形表現・リズム表現など体験的な内容を中心に実施した。</p> <p>*ウェルフェア</p> <p>土曜エリア学習では 車いす体験・白杖体験・高齢者体験など体験型の授業を実施することができ、生徒たちは興味深く学ぶことができた。また、キャリアアップエリアの進路講習にも参加し、福祉施設(企業)の話も聞く機会を持つことができた。</p> <p>○令和5年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢をみながら幼児教育・福祉ともに学外での実習をできる範囲で実施 ・福祉では次年度より高校福祉の教員を迎え入れるので、基礎教養・土曜エリア・7限目それぞれのカリキュラムを見直し ・保育検定など資格の取得を検討(カリキュラムの見直し) ・Instagramなどを通じて活動を発信 ・大学・専門学校の学校見学 <p>3) アスリートエリア</p> <p>○エリア学習</p> <p>基本的には各クラブにおいて活動した。また、</p>
---	---	--	--

○学びのテーマ
 ①「社会を知る」力の向上
 ②「自分を知る」力の向上
 ③自己表現力の向上
 ④生活力の向上
 ⑤基礎学力向上
 エリア学習では判別講座と全体共通講座で上記テーマの学習を行う。

共通講座としての「目標設定講座」を各クラブの適当な時期に実施し、生徒の意識向上につなげることができた。

エリア学習によって活動時間が確保でき、余裕をもってメニューを設定することで、生徒のアスリートとしてのスキルアップにつながったと感じている。全体的にエリア学習の時間は充実したものになっていると感じている。

また、中学生などにも浸透してきており、個人での参加だけでなく、学校・チーム単位での問い合わせも増えてきている。一方で、バレーボール部など移動をともなう場合、中学生の参加が学校単位になると、バスと一緒に移動するのはむずかしくなっており、検討が必要である。

○今後に向けて
 場所の問題など、よりよい環境を整えていく方法を考えつつ、エリアの基本方針を達成できるように、それぞれのクラブが工夫しながら活動をより充実させていきたい。

また、他エリアの先生方のご協力を賜りながら、生徒の進路希望などを叶えられるよう指導していきたい。

4) キャリアアップエリア
 ○土曜日エリア学習：
 過去4年間で行ってきたものを踏襲し、班単位（縦割り少人数班（教員数分）で、主に下記の通りに講座等を中心に実施した。

*毎回、共通のテーマを決め、班単位でのLHR形式で学ぶ場を設定した。

- ・求人票の見方
- ・昔話法廷から物事の多面性を考察する
- ・企業専門学校ガイダンス（箕面文化センター）
- ・働くための13項目（ワークルール）
- ・年金セミナー ・適学適職ナビ
- ・進路ガイダンス（企業別）（専門学校別）

定期考査対策講座
 ・3学年内定者講習

*担当教員1名につき1講座を設定し、毎回、各班が1講座ずつ受講する。

*専門業者による進路講習会やガイダンスを行った。

*班による朝礼・終礼を行い、指示や振り返り、アンケート等により当日の学びの再確認の場とした。

○サマーキャンプの実施
 7月21日～23日の2泊3日で企画し、参加者17名の申込があったが、湖西学舎の空調の

故障から、期間中の生徒の健康管理に不安が出たため、急遽中止となった。

○サマーセミナーの実施
 8月17日～24日のうち6日間×3時間、計18時間の実施とした。講座は下記の通りであった。

- ・絵画鑑賞プログラム ・一般常識 ・SPI 対策講座 ・英語講座
- ・基礎学力講座（国語） ・自然観察 ・栄養講座（理科）（家庭科）
- ・調理実習

受講生徒は7名と、少ない印象であり、例年の取り組みの発信不足を感じた。

○7限目講座の実施（3学期に短期講座として実施）

- ・化学基礎復習講座
- ・生物基礎復習講座
- ・丁寧な字を書きましょう講座
- ・日常の中の化学実験 ・漢字検定対策講座（宿題対応）
- ・職業体験講座（株式会社ジンジブの協力で実施）

受講生はのべ26名であったが、宿題対応を除くと多いとは言えず、継続的な取り組みの中で、少しずつ受講者を開拓する必要性を感じた。学級・学年閉鎖、当該生徒の出停等の影響で開講できなかった単発講座もあった。

○校外学習の実施
 12月15日に、校外学習として王子イメージングメディア 神崎工場（尼崎市）への企業見学を実施した。参加者は6名であった。

○生徒へ年度末に年間を通しての振り返りアンケートを実施した。

生徒アンケート全体を総じて、社会人として必要な素養（礼儀、挨拶、マナー、時間、身だしなみ、金銭感覚・・・）の必要性を感じている生徒は非常に多くいることが分かった。しかし、それらを日常生活で実践し続けることには繋がっておらず、生徒の頭にあるものを具体化するツールとしてのエリア学習であるべきであると痛感した。

○全体を通して
 一定数の欠席数は相変わらず続いており、進学希望者の中でも、専門 or 大学の狭間で悩む生徒や、とりあえず就職としている生徒が大多数であり、確たる目標や将来像が描けないまま、なんとなく参加している印象は強いです。そのため、各回をだましまし実施している感も否めず、その中で、社会人意識との出会いを見出させる取り組みを模索していきたい

			と考えます。 回数の限られたエリア学習や、その他の取り組みの中から、エリアへの意識を定着させることも難しく、次年度については、1教員1班の少人数制から、もう少し大きな単位での動きに変換し、複数の教員で各生徒に触れ合う時間を増やすことも必要かと考えています。 併せて、土曜日のエリア学習以外の取り組みを頻繁に増やすこと、校内への発信にも力を入れ、キャリアアップでの取り組みに興味を持つ生徒の発掘をすすめる必要があると考えています。
学習習慣の形成	毎朝ホームルーム10分間で朝学習の課題に取り組んだ。10月末の読書週間では朝読書に取り組んだ。	朝学習に取り組むことで授業にスムーズに入れるなどの学習習慣を形成する。	数値化することは困難ではあるが、年々遅刻者も減少しているように少しずつではあるが習慣づけができています。
進路別指導の充実	・7限目授業 おのおのの進路に応じた講座を実施した。 *アドバンス 進学講習 *キンダーアンドウェルフェア 幼教音楽講座 *キャリアアップ 年度途中より3つの講座を開講 *小論文講座	基本的に希望者への個別指導で学力の向上を図る。 1) アドバンスエリア 進学講習 2) キンダーアンドウェルフェアエリア ピアノ講座 福祉講座 3) キャリアアップエリア 3学期に短期講座として実施 ・化学基礎復習講座 ・生物基礎復習講座 ・丁寧な字を書きましょう講座 ・日常の中の化学実験 ・漢字検定対策講座(宿題対応) ・職業体験講座(株式会社ジンジブの協力で実施)	一層の充実を図る。 キャリアアップエリアの7限目講座について受講生はのべ26名であったが、宿題対応を除くと多いとは言えず、継続的な取り組みの中で、少しずつ受講者を開拓する必要性を感じた。 学級・学年閉鎖、当該生徒の出停等の影響で開講できなかった単発講座もあった。
小論文指導	文章作成能力の向上に向けて小論文指導を総合学習の中で行った。学年ごとに生徒を十数名の少人数班に分け、それぞれ決まった担当教員を付けて指導した。 「学研教育みらい」の次の教材を用いた。 1年 文章の書き方講座 2年 キャリアデザイン講座 3年 志望理由書講座 適宜放課後の補習も行った。	それぞれの教材に対応した小論文テストを生徒に受験させた。	○前年度との変更点 ① 説明作文・意見作文の前半である「話し言葉で書かない」などの知識分野は「現代の国語」の授業内に吸収した。また、下書きを書き上げることができなかった生徒に対しては「現代の国語」の授業内で指導した。その結果、大きな混乱等は見られなかった。来年もこの形で進めることにより、逼迫しがちな1年生の火曜5、6限を少しでも余裕を持たせることができると考える。 また、1年生の小論文テストに関しては1学期、2学期の中間考査中に行った。(「現代の国語」は中間考査を実施しないためその枠で実施。) ② 2年生は今年度、昨年1年生で実施しな

		<p>った体験作文を1学期に実施、その後2学期以降なるべく遅い時期でキャリアデザインサポート講座を行った。1年生で実施するよりも比較的生徒たちも書くことができていたため、このスケジュール感が良いと思われる。志望理由書を生徒たちが書く中でもっともまずくのが【社会的意義(社会と自分がしたい仕事/研究のつながり)】である。社会の中で自分が将来就きたい仕事がどのような意義を持っているのか、自分が研究したいことは社会の中でどのように役立つのかなどを書くパートであるが、毎年ここで苦慮し、先へ進むことができない生徒が多くいる。これは2年生のキャリアデザインサポート講座について限ったことではなく、実際に大学へ提出する志望理由書を書く3年生にも共通して言うことができる。その原因は「生徒が社会に対して興味を持っていない」ことではないだろうか。生徒が社会に興味を持つために【探究学習のより一層の充実】が最も必要だと考える。探究学習を通して生徒たちは社会に対して疑問や興味を持つことができるのではないかと。そのために小論文指導だけでなく、探究学習についても合わせて考えていく。</p>
<p>検定学習(漢検)</p>	<p>検定実施回数 1年:2回 2年:2回 3年:2回 検定講座実施回数 1年:3回 2年:5回 3年:3回</p>	<p>○合格実績 *漢字検定 2級1人、準2級7人、3級40人、4級65人、5級115人、6級43人、7級14人。 *英語検定 3級9名、4級8人、5級2人 *ビジネス検定 3級10人、4級2人 ○総括・課題 各学年・教科・部活の協力もあり、さまざまな検定試験を実施することができた。 6/17に実施した第一回漢字検定において、2級の合格者が1名、準2級の合格者が6名出ている(昨年度2級0名準2級2名)。近年の上位級合格者の増加により、生徒全体の受検級水準は高くなりつつある。より高い級の受験者が増えるため、講座の開講などの対策を取る必要がある。 本年度も昨年度に引き続き、進学・就職に利用する履歴書への記入に間に合わないことがないよう、第二回漢字検定の受検日を9/3に実施した。その結果、合格者は受験者128名中7名のみであったが、履歴書提出に間に合わせるすることができた。検定講座の回数を十分に設けることができなかったこと、長期休暇明けすぐの受検となってしまったこと、また履</p>

			<p>歴書に記入することができる級(3級以上)に挑戦した受験者へのフォロー不足が、合格率が少なかった原因であると考えられる。(3級以上合格率:27%)</p> <p>本年度は例年通り各学年2回実施することができたこともあり、昨年度と比べて年度全体の合格者数も大幅に増加している。(昨年度合格者:183名)</p> <p>英語検定・ビジネス検定からも合格者が出ている。中でも、英語検定、ビジネス検定では各検定において3級と、上位級の合格者が出ている。</p> <p>来年度も引き続き各学年・教科・部活と連携を取りながら、さまざまな対策を講じつつ各種検定を実施していく必要がある。</p>
--	--	--	--

	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指針	自己評価
2 ・ 生徒の規範意識の向上、基本的な生活習慣の確立、身だしなみの徹底、マナーの向上	遅刻指導の徹底	毎朝、登校時に阪急箕面駅から学校までの通学路に教員が立ち、登校指導を行う。また、ポイント指導を取り入れ、遅刻数をポイント化し、ポイント数に応じた指導を行う。	今年度の日当たりの遅刻数を過去3年分の数と比較し、算出する。	<p>○1日あたりの平均遅刻者数</p> <p>*令和4年度26.8</p> <p>*令和3年度20.8</p> <p>*令和2年度19.0</p> <p>一昨年度、昨年度と続き遅刻者数が増加している。日々の指導を徹底していく。</p>
	身だしなみの徹底	学期始め、定期考査中に頭髪服装検査を生徒指導担当、生徒指導専従により行い、改善が必要な生徒には、学年で徹底指導を行う。	頭髪服装検査で頭髪指導数を過去3年分と比較し、年度平均数25%以下を目指す。	<p>*令和4年度15.6</p> <p>*令和3年度11.9</p> <p>*令和2年度14.0</p> <p>令和4年度は昨年度にもあげたとおり10%~15%を目指す。今年度この数値を少し超えた。引き続き指導をしていく。</p>
	マナーの向上	毎朝、教員が通学路に立ち、あいさつ運動を行い、併せて生徒会でも定期的に行っている。 校外清掃の実施	教員、生徒会だけではなく、一般生徒も巻き込んで常日頃からあいさつが出来るように引き続き取り組む。	<p>数値化は困難ではあるが、継続して行う。</p> <p>近隣の方から「元気にあいさつしてくれる」など評価も受けている。</p>
	講習会の実施	令和4年度 実施講習会 ・スマホ・携帯安全講習会 ・自転車指導講習会 ・薬物乱用防止講習(1・2年)	講習内容によって、講習後の振り返りを行い、効果や理解の状況を把握している。	<p>実施の効果が確認でき、今後も必要に応じて適宜講習を実施し、生徒の意識の涵養につとめる。</p>

	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指針	自己評価
3 ・ 生徒自身の自主活動を充実させ、自立の精神を養う	学校行事の充実	<p>体育祭、文化祭など、生徒一人ひとりが魅力を感じる取組を行う。</p> <p>クラス単位、学年単位で“自分たちで作り上げる体育祭、文化祭”という意識づけを行う。</p> <p>。</p>	<p>生徒向けアンケートで肯定感80%以上を目標にあげる。</p>	<p>生徒向けアンケートで「全体を通して楽しむことはできましたか」の質問に、「できた」「まあまあできた」と解答した生徒の割合は89.6%だった。前年度より2%アップしている。</p> <p>部門別に見ると</p> <p>展示96%、模擬店86.4%となっている。</p> <p>舞台についてはダンス部、吹奏楽部、音楽部の舞台について平均で「よかった」が46.3%だった。舞台については「見るができなかった」が平均で37.5%あり、これは模擬店などに従事して見ることができなかったものである。</p>
	部活動の活性化、加入率アップ	<p>オープンキャンパスや新入生向け部活動紹介等をより充実させ、学校HP等を利用し、各部のアピールを行う。</p>	<p>クラブ加入率50%以上を目指す。</p>	<p>○クラブ加入率</p> <p>令和4年度44%</p> <p>令和3年度60%</p> <p>令和2年度60%</p> <p>今年度は目標50%を下回った。新入生向けの部活動紹介等をより充実させ加入率の向上を目指す。生徒がより充実した学校生活を送ることができる様に取り組んでいきたい。</p>
	生徒会活動の充実	<p>主な活動</p> <p>○学校における生徒の生活の改善と向上を図る活動</p> <p>○文化祭運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動の実施 ・オープンキャンパス運営補助 ・文化祭運営 ・コンタクトレンズ空ケース回収 		<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動を今年も生徒会で行った。 ・コンタクト空ケース回収を行った。